

流行ニュース：

< エボラ出血熱、ガボンとコンゴ（更新） >

1月7日現在、34 症例（ガボン 21 例、コンゴ 13 症例）が国境地域の村で確認され報告された。ガボンではさらに 16 名の疑診症例がある。1月7日現在、231 名の接触者が確認された（ガボン 197 名、コンゴ 34 名）。Mekambo の感染地域の安全上の問題のため、国際チームは一時的に Makokou（ガボン）に移転した。

今週の話題：

< アフリカ諸国でのメジナ虫症根絶、2001 年 1 月-9 月 >

メジナ虫症の流行する 9 カ国（ベニン、ブルキナ・ファソ、中央アフリカ共和国、チャド、コートジボワール、マリ、モーリタニア、ニジェール、トーゴ）の各国メジナ虫症根絶計画についての再調査会議が 2001 年 10 月 29 日から 31 日までベニンの Cotonou で開かれ、ユニセフ、WHO、カーター・センター並びに他の協力機関の代表者、各国のギニー虫根絶計画のコーディネーターが出席した。

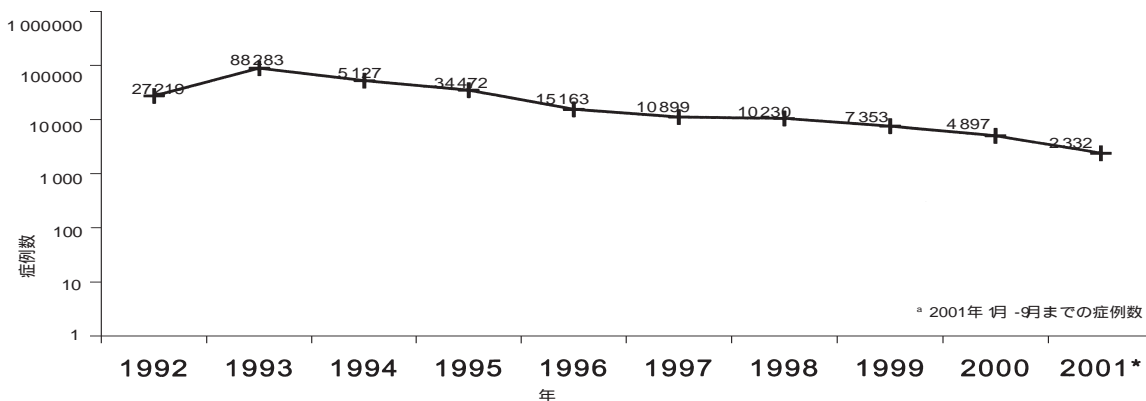
表 1. メジナ虫症例数、アフリカ諸国、月別、1 月 -9 月、2001 年

国名	症例数 (1 月 -9 月、2000 年) ^a	月別報告症例数、2001 年 ^b									隔離症例数 (%)	
		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計	
ベニン	120	17	14	7	3	1	0	1	0	6	49	88
ブルキナ ファソ	1 692	20	29	37	61	188	194	125	70	102	826	71
中央アフリカ共和国	35	0	0	0	1	1	5	4	1	1	13	31
チャド	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	NA
コートジボワール	276	40	60	38	6	11	8	5	9	8	185	45
マリ	170	6	0	0	0	2	2	55	193	134	392	58
モーリタニア	98	1	0	1	0	1	3	25	20	29	80	55
ニジェール	914	2	2	0	2	13	12	62	101	105	299	55
トーゴ	501	119	91	66	48	20	44	25	36	39	488	81
計	3 812	205	196	149	121	237	268	302	430	424	2 332	66

^a No. 18, 2001, p.133-139 参照. ^b 暫定数

表 1 は、流行地である 9 カ国のデータから作成されたメジナ虫症症例数を示す。438 の村から合計 2,332 名のメジナ虫症患者が報告された。患者総数の 66%は隔離された。患者数の最も多いのは、ブルキナ・ファソ（826 名）、トーゴ（488 名）、マリ（392 名）、ニジェール（299 名）とコートジボワール（185 名）である。ベニン、中央アフリカ共和国とモーリタニアの 3 国では計 142 名であった。チャドは 2001 年には報告がなかった。全患者数のうち 39 名は次に述べる国への輸入感染症例として報告された：ブルキナ・ファソ(11 名)、ベニン(9 名)、ニジェール(9 名)、トーゴ(6 名)とコートジボワール(4 名)。これらの患者はトーゴ(9 名)、ガーナ(8 名)、ナイジェリア(6 名)、ニジェール(5 名)、ベニン(4 名)、コートジボワール(4 名)とマリ(3 名)から輸入された。流行の見られる 9 カ国における感染者は全世界の全ての流行地域の国(スーダンを含む)のうち WHO に報告された全患者数の 5%に当たる(45,410 名の内 2,332 名)。スーダンは単独で 35,036 例を報告し、この数は世界中の 77%に相当する。スーダンを含まない場合はこれら 9 カ国での患者の割合は 22% (10,374 名中 2,332 名)であった。

図 1 :メジナ虫症症例数、アフリカ諸国、1992 年 -2001 年



このグループの国での患者総数の低下率 39%は、2000 年の最初の 9 ヶ月間と比較して 2001 年の同じ 9 カ月間に起こった。この低下率 39%は、1998 年、1999 年、2000 年（それぞれ 6%、28%、33%：図 1）の各々の年に達成された低下率を上回っている。

最も症例数の多い 5 カ国のうち、ニジェールとブルキナ・ファソ（68%と 51%）における症例数は激減した。トーゴでは症例数の変化はない。一方、マリでは 133%増加した。コートジボワールでは、32%減。2001 年度ではベニン、中央アフリカ共和国とモーリタニアで症例数が 36%減少した。

* ベニン：2001 年 1～9 月の間にメジナ虫症症例 40 例が 19 の村から報告された。これは前年の 103 名から 61%の減少であった。加えて、9 例の輸入感染症例（トーゴから 8 名、ガーナから 1 名）が報告された。ベニンは 9 カ国の中で最大の隔離率 88%(49 名中 43 名)を示した。メジナ虫発生ピーク時は年の年始年末のそれぞれ 3 カ月に生じるため 2001 年の全症例数は 100 以下になると予想される。

* ブルキナ・ファソ：2001 年 1-9 月の間に 125 の村から 815 例が報告された。前年の同時期と比べ 51%の減少であった。加えて、11 例の輸入感染症例（コートジボワール(4 名)、ニジェール(3 名)、ガーナ(2 名)、マリ(2 名)）が報告された。585 例(71%)が隔離された。

* 中央アフリカ共和国：2001 年の最初の 9 カ月間で 8 の村から 13 例が報告された。4 例(31%)が隔離。国の南東部から報告された。

* チャド：2001 年 1-9 月の間にチャドからの報告はなし。

* コートジボワール：2001 年 1-9 月の間に 26 の村から 181 例が報告された。加えて、4 例が近隣国からの輸入感染症例（ガーナ、トーゴ各 1 名、ニジェール 2 名）、46%が隔離された。前年の同時期と比べ、症例数は 32%の減少。

* マリ：2001 年の最初の 9 カ月間に 73 の村から 392 症例が報告された。隔離率は中等度の 58%(392 例中 228 例)。前年との比較で 2001 年の最初の 9 カ月間に増加(133%)を報告した唯一の国であった。

* モーリタニア：2001 年の最初の 9 カ月間に 21 の村から 80 症例が報告された。44 名が隔離。前年の同時期と比べると 18%の減少。

* ニジェール：2001 年 1-9 月の間に 54 の村から 290 例が報告された。前年の同時期と比べると 68%の激減。55%(290 名中 164 名)の隔離が報告された。9 名は近隣の国からの輸入感染症例（ナイジェリア 4 名、ベニン 2 名、ガーナ 2 名、マリ 1 名）であった。流行はほとんどが Mirriah、Tera、Tillabery、Tahoua で国の南部であった。

* トーゴ：2001 年 1-9 月の間に 112 の村で 478 症例の報告。前年の同時期と比べ変化はなし。6 例の輸入感染症例（ベニン、ガーナ、ナイジェリアからの各 2 名）を報告。報告症例の半分はほとんど国の南部からで、Ogou(27%)、Aye(14%)、Doufelgou(12%)地域であった。

* 編集ノート：メジナ虫症根絶のための世界保健会議の決議により、1991 年に設定された目標を達成するため、世界的に多大な努力がなされてきた。9 カ国のうちメジナ虫症例数の減少を示したのは 2001 年の最初の 9 カ月間ではブルキナ・ファソとニジェールだけであった。ベニンとモーリタニアを含む、いくつかの国においては 1-2 年間以内に根絶されると予想される。しかしながら、根絶の進行ペースは可能な限り短期間に多くの国を疾病から解放するため加速されるべきである。最も高い症例総数を報告するスーダン、ナイジェリア、ガーナの 3 カ国に焦点を絞るべきであろう。カメルーン、チャド、セネガルからは報告はなかったが、調査及び介入計画への取り組みは維持する必要がある。流行国で最優先されることは隔離率を改善するため介入を強化することである。介入と隔離率の成否は、翌年のメジナ虫症例の減少の程度によって評価されるだろう。

参照：図 2：メジナ虫症患者の増減 2000 年 1 月 9 月と 2001 年 1 月 9 月の比較

流行ニュースの続報： <インフルエンザ>

ベルギー(2001 年 12 月 29 日)¹：インフルエンザの局所的な流行は、12 月の最終週に報告された。急性呼吸器感染症の割合は、月の最初の週に増加し始めた。

フランス(2001 年 12 月 29 日)²：12 月の最終週、A 型の流行が Rhone-Alpes 地方で報告された。

ロシア連邦(2001 年 12 月 29 日)：12 月の最初の週以来、インフルエンザ様の疾病の罹患率はいくつかの都市で流行閾値を上回っており主に児童間で流行している。これらの都市の 4 地区は、Barnaul、Kirov、Krasnodar、Yakutsk であった。インフルエンザ様疾病の割合は Kiev でゆっくりと増加した。

スペイン(2001 年 12 月 29 日)：分離されたインフルエンザ A 型の亜型未分類、A 型(H3N2)のウイルス数は、12 月の最終週の間、増加した。罹患率は多くの地区で流行閾値を上回った。その前週には A 型と B 型ウイルスが(Pais Vasco、Madrid、Andalucia、Aragon から)分離され増加した。参照：

¹No. 50, 2001, p. 400 ²No. 41, 2001, p. 324